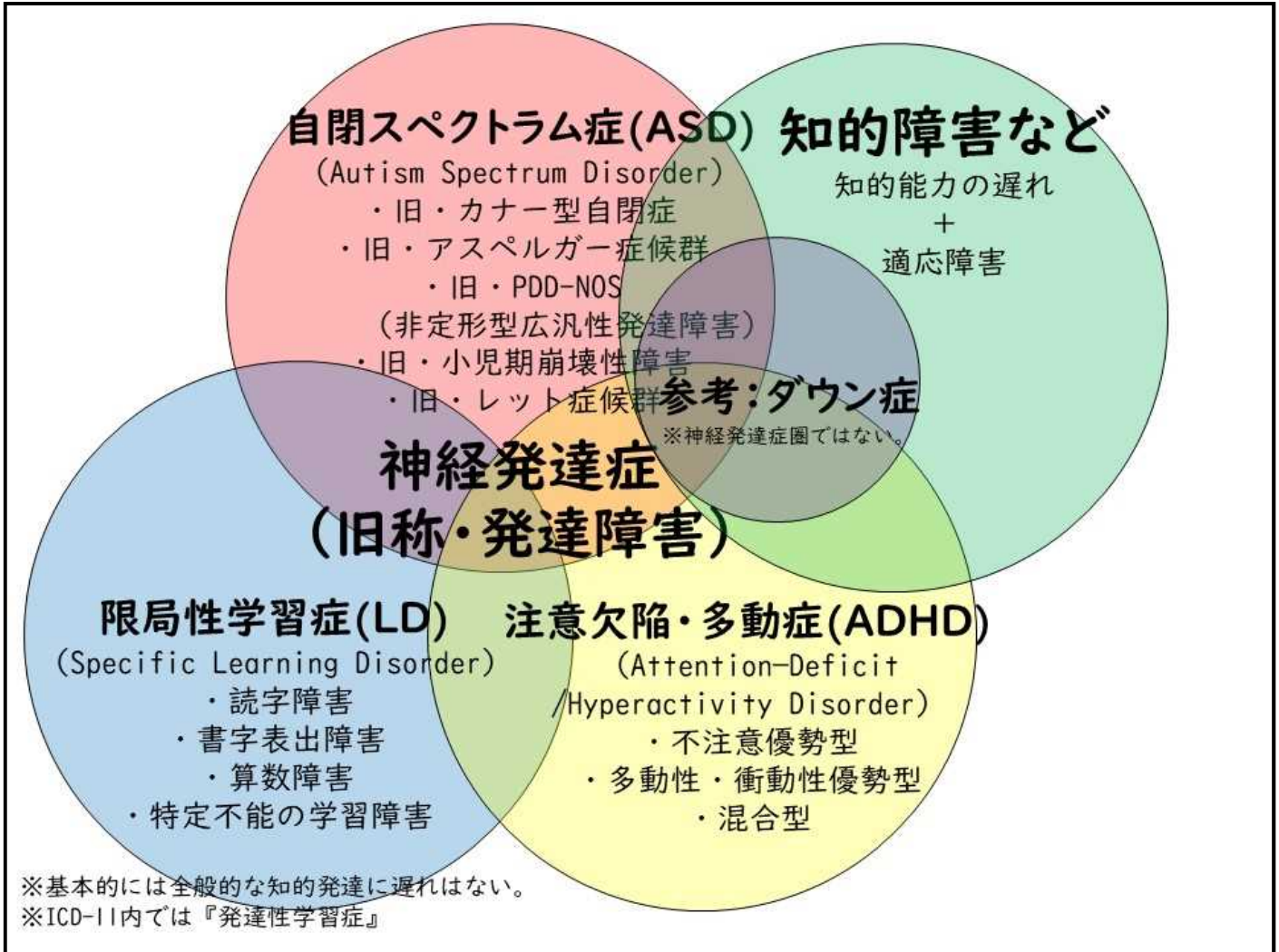


「自閉症のある児童」「自閉症圏」「発達障害圏」 「発達障害の児童」 + 「合併症状」を正しく知る

「とある講師資料を作りがてら…。私たちが学習指導案を書くときに「自閉スペクトラム症のある児童が…」とか「自閉症圏の児童が…」とか、よく書きます。また、小中学校内の特学級に通う子どもたちの話しをする中では「発達障害圏の児童・生徒だと…」ということばも飛び交います。「自閉症のある児童・生徒・自閉症圏の人・発達障害圏の人」など、私たちは抽象的なマジックワードとも言えるこの専門用語を正しく理解しているかという、そうでもない人も多いよなあ…ということで、ちょっと図にしてみました。



「…どう？ちゃんと知っていました？私たち知的障害特別支援学校の先生が指導・支援の対象にするのはもちろん知的障害のある児童・生徒なので右上の範疇となりますが、それだけでもざっくり分けた右図の①から⑧までの特性の違う児童を指導・支援していることとなります。そこに自閉・情緒特学級、通級、通常学級などを加えると、実に多様な特性を持った児童・生徒を特別支援教育は対象としていることに気がつきます。一つ気がつくのは、私たちはADHDの特性のある子ども指導・支援の対象にしているにもかかわらず、その特性への理解はASDの理解に比べると少し弱いですね…。」

- ★知的障害特別支援学校/知的障害特別支援学級に在籍する児童生徒
- ① 単純知的障害
- ② 知的障害 + 自閉スペクトラム症 (以下『ASD』とする)
- ③ 知的障害 + 注意欠如・多動症 (以下『ADHD』とする)
- ④ 知的障害 + ASD + ADHD
- ⑤ 知的障害 + ダウン症
- ⑥ 知的障害 + ダウン症 + 自閉症
(※ダウン症は染色体が因子、自閉症は遺伝子が因子)
- ⑦ 知的障害 + ダウン症 + ADHD
- ⑧ 知的障害 + ダウン症 + ASD + ADHD
- ★自閉情緒学級・通級・一般学級に在籍する児童・生徒
- ① ASD
- ② ADHD
- ③ LD (以下、『限局性学習症』とする)
- ④ ASD + ADHD
- ⑤ ASD + LD
- ⑥ ASD + ADHD + LD